

資料1 多賀地区の津波対策（課題と対応策）（第1回～第3回地区協議会のまとめ）

【1・2・3・4・5・6グループ】

第4回地区協議会資料
(平成29年7月4日)

分類	H27. 8. 26地区協議会（第1回）	H28. 1. 22地区協議会（第2回）	H28. 7. 24地区協議会（第3回）	考えられる対応策
ハード対策 護岸整備	<p>《現状維持》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和田木地区 現状維持 景観重視 ・現況のまま堤防以外の対策を ・そもそも堤防の効果はどの程度なのかが疑問 ・景観を損ない、効果があまりないような中途半端なものならいらない ・海の見えない熱海は考えられない ・景観が悪くなる・観光業の支障になる ・百八体流灯祭が出来ない ・観光地であることが重要であるので擁壁等で景色を悪くしてはいけない ・擁壁が出来ることにより交通事故が多発する ・5.9mの堤防で海が見えた方がよい ・ないよりはあった方がよいので5.9mの堤防 ・堤防の高さ（長浜地区）現状でよい ・防潮堤から海が見えること ・海が見えない防潮堤は意味がない ・現状維持（和田木） 景観・経費 ・防潮堤が津波を防げるのか（自然には勝てないのでは） ・費用対効果で考えると効果に疑問あり ・夏期の繁忙期では堤防が支障になって避難できない ・東日本地震でスーパー堤防は役立たなかった 	<p>【上多賀地区】 <u>L1未満</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防を作るにしても歩道から1.2mくらいの高さにして欲しい（ポンプ小屋前の石垣の高さ） ・歩いていけば海が見えるくらいの高さ ・堤防を連続化する ・埋立で海からの距離を広くとる ・観光を無視してまで堤防を高くする必要はない ・堤防が高いと津波が見えない ・津波が見えないと避難しない 	<p>【上多賀地区】 <u>L1未満 (5.5m)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5m～5.5m ・今まで5.0m 5.5mまで上げることも考えられる ・+50cmならば歩道も上げて海が見えるようにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元との合意形成がとれれば、L1津波高さに対する堤防の整備を検討できる。 ・堤防の高さについては、地元との合意形成により、L1津波高さに対する必要堤防高以下の高さに決めることができる。 <p>→ 【上多賀・下多賀・中野】胸壁・陸間新設または護岸改修（かさ上げ）(T.P.+6.0m) (H-1-1)</p> <p>→ 【小山】胸壁・陸間新設(T.P.+7.0m) (H-1-2)</p> <p>→ 【和田木】現状維持（ただし、網代地区との調整により変更の可能性がある）</p>
	<p>《現況～L1未満》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は全域6mで仕上げ早く完成させてもらいたい その後嵩上げすればよい ・大川左岸 道路から1.2mの高さに防潮堤を設置 	<p>【下多賀地区】 <u>現状維持</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防の整備は必要なし(7人中7人) ・情報を聞き上に避難すればよし ・景観が悪くなる ・堤防整備しない ・百八体ができなくなる 	<p>【下多賀地区】 <u>現状維持 or L1 (7.0m)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト重視 現状の高さで ・百八体 湾が見えればよい 高さ巾を広く ・造るなら高く L1 ・観光面にも配慮（窓枠みたいなもの） 	
	<p>《L1以上》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防の高さ7m必要であるが観光産業である熱海市の為 国道135号を盛り上げ景観をそこなわないようにする（問題は商店） ・レベル1に対する堤防（7m）が海岸沿いに必要 ・7m堤防は必要 ・中野地区 堤防7m 現況5.9m 2.1mのカサ上げで津波が防止できるならやるべきだ 山の手へ引越し ・必要な高さが必要 6.0m 命が助かる人が多くなる ・L2に対応してほしいが ※田老町をみて ・L1(6～9m)であれば9m ※6m 9mも景観には変わらない？ ※外側に遊歩道 ※展望台等、設置 ・堤防をつくるのであれば高いほうがよい ・被害状況が同じなら経費でタワー、高台等ソフト面で堤防高5m 現況+1.0m ・レベル1 津波を防げる高さで堤防を作してほしい 理由一番現実的かなと思う ・レベル1でかさ上げ実施 ・L1レベルの津波に対する高さの堤防高をできるだけ確保 不足分は事前の訓練等で対応する ・神奈川西部地震の高さで整備して欲しい 	<p>【中野地区】 <u>L1 (7.0m)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さはL1 (8人中8人) ・堤防必要 ・上多賀・下多賀・小山各町内とも防波堤建設に協力願いたい ・住民の命をしっかりと守る ・一日も早くかさ上げしてもらいたい 人命第一 ・百八体行事の準備の為、現在の階段部に入り口を作っていただきたい（通常は締切） 	<p>【中野地区】 <u>再検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さについて再検討したい ・当初、現況施設高5.9mであった ・本日現地調査では5.35mであったため再度歩道50m間で壁高を調べてもらいたい ・壁高の現地説明は透明シートのためイメージが不要 ・透明でなく板等で向こうが見えない物で説明願いたい <p>【H28. 8. 3現地立会い高さ確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中野は6.0m 	
		<p>【小山地区】 <u>L1 (7.0m)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・L1 整備 6人中6人 ・命、財産を守りたい ・防災倉庫が水没する ・小山地区については前回と同様L1の高さでマリンホールまでかさ上げして欲しい。 ・和田木側は和田木地区の方針に従う。 	<p>【小山地区】 <u>L1 (7.0m)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・L1 (7m) ・景観への配慮をしてほしい ・L1整備 (7.0m) 	
		<p>【和田木地区】 <u>可動式</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波がきたら立ち上がる堤防の整備 ・可動式の堤防が出来ないなら普段は遊歩道として使える観光地にマッチした堤防 	<p>【和田木地区】 <u>現状維持</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かさ上げ不要 ・擁壁の整備なし ・景色の保全 ・ソフト面の充実 <p>【H29. 5. 12関係町内会長打合せ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上多賀・下多賀・中野は6.0m ・小山は7.0m ・施設整備にあたっては、眺望や景観に配慮する。 ・和田木は現状維持（ただし、網代地区との調整により変更の可能性がある） 	

分類		H27. 8. 26地区協議会（第1回）	H28. 1. 22地区協議会（第2回）	H28. 7. 24地区協議会（第3回）	考えられる対応策
ハード対策	水門整備	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸線は現況 河川について堤防はどうしますか？ ・川対策 海に水門をつくってもらおう ・上多賀大川水門 ・避難道路付近に河川があるので河川にも堤防（海より150m程） 	<ul style="list-style-type: none"> ・河川が2か所ある為「水門」を整備して欲しい（小山地区） ・河川の逆流防止 ・宮川河口水門 ・池田港国道下へ水門 ・水門の整備 		<ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤の高さに合わせた、水門の整備を実施。 → 上多賀大川、熱海宮川、熱海仲川、鍛冶川について、施設効果の高い順に河口部水門を整備(H-2) （調査・設計により、整備効果が認められた場合）
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防の高さ7.0m整備する 海の中（沖）に作成 ・海の消波ブロックをとところどころ設置 ・施設整備なら予算がいくらかかるのか ・熱海高校倉庫～大川まで埋立 ・熱海高校の倉庫から大川までの埋立 ・堤防をつくる位置によっては考え方がかわる（例えば国道より山側へ作るとか・・・） 			
ソフト対策	避難路	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路、避難場所の確保を優先すべきでは ・避難路の整備が必要 途中のがけくずれ ・避難道路の整備 ・老人が多いため避難路の整備 ・避難すべき場所、方向を明確にする ・避難路の幅が狭い ・津波とは関係ないかもしれないが自己で避難路を考える ・避難経路の設置・充実 ・避難経路の充実 ・浜からあがる道がせまい 	<ul style="list-style-type: none"> ・県道と市道の整備 ・避難路の整備 車いすが通れるもの ・避難路の整備(スロープ等の整備) 	<ul style="list-style-type: none"> 【上多賀地区】 ・長浜 避難路を多く用意すべき ・歩道の幅もあわせて広げられないか 【下多賀地区】 ・歩道を広げて ・防潮堤の上を歩けるように 【小山地区】 ・避難路のショートカットがほしい ・避難路が狭くて急なので整備してほしい ・イノシシが避難路を荒らすので対策をしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路の整備 → 避難路の整備（手すり設置）(S-1-1) → 避難路の整備（手すり設置）(S-1-2)
	避難路（表示）	<ul style="list-style-type: none"> ・サインは照明付きで 	<ul style="list-style-type: none"> ・下多賀 マーキング L1 		<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の表示 → 避難誘導看板設置(S-2) → 避難方向路面標示(S-3) （モデル施工の結果による）
	避難路（照明）	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間時には停電の恐れがあるので防犯灯の一部をソーラー化してほしい（道路30m間隔に） ・足元灯 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜は明かりが欲しい 		<ul style="list-style-type: none"> ・避難路の照明 → 街灯の新設及びLED化に対する補助(S-4)
	避難場所（避難ビル）	<ul style="list-style-type: none"> ・避難タワーの整備・避難タワーの設置 ・避難タワーのほうがいいのではと思う ・高台移転や避難タワー整備等、避難対策を図る ・命山 ・避難タワーを作る 各地区に ・大川右岸 津波避難タワー設置（会館） ・公民館のタワー化 	<ul style="list-style-type: none"> ・和田木会館を耐震化して避難所として使用する ・お浜地に避難タワーを作れば良い ・タワーは不要 ・避難ビルの指定 わかるように ・上多賀会館に避難タワー 	<ul style="list-style-type: none"> 【和田木地区】 ・避難路や避難地、公民館の耐震化など ・避難タワーの新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所 → 市役所南熱海支所・消防署南熱海出張所の建て替え(S-5)
	避難誘導 避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者を（特に高齢者）早く導く手だて ・率先して逃げる人がいるか ・ソフト面でやる ・避難訓練の実施 ・地震発生後、直ちに避難する訓練をしておく ・夜間の想定も大事 ・命が優先・素直に避難かな 	<ul style="list-style-type: none"> ・年寄り、身障者の避難対策 ・避難訓練の充実 ・高齢者や移動困難な人の配慮 		<ul style="list-style-type: none"> ・津波避難計画及びハザードマップの作成 ・避難訓練
	情報伝達	<ul style="list-style-type: none"> ・広報無線が良く聞こえない為、整備を実施して欲しい ・サイン 放送設備（地震時でも稼働できる物）が必要 ・地震時L1かL2かわからない？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報伝達方法 ・広報無線が聞こえない ・うみえーる長浜に放送が聞こえるようにして欲しい 		<ul style="list-style-type: none"> ・Jアラート（全国瞬時警報システム）の活用 ・Jアラート緊急割込み放送システム（FM熱海湯河原）の導入 ・緊急速報メール（エリアメール）による情報配信 ・その他情報発信（メールマガジン、ケーブルテレビ、FMラジオ） ・同報無線のデジタル化
住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の倒壊が心配 ・家に1件避難部屋 			<ul style="list-style-type: none"> ・TOUKAI-0による支援 	